

2-2 各教員が有する業績および、担当する授業科目

○教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項)

科目名	担当教員	科目に対応する主な業績
(絵画)		
絵画基礎 日本画Ⅲ-I 油画Ⅲ-I 油画Ⅰ 油画Ⅱ-I 油画Ⅱ-II 油画Ⅲ-I デザイン(絵) 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	高崎賀朗教授	2017 混合技法(ミクストメディア)による絵画表現の可能性の追求-絵画技法(油彩画・アクリル画)と版画技法(シルクスクリーン)との混用を基に- 『教職課程年報vol.2 (1)』、p.60-73 2018 主題と表現内容について 『沖縄・台湾芸術大学交流展2017』、p.10 2018 image, 1-B, 2017 『美術教育の森-東京藝術大学 美術教育研究室の作家たち-』、p.34
油画Ⅰ 油画Ⅱ-II 油画Ⅲ-I 空間デザイン 染 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	阪田清子教授	2017 素描教育についての一考察 - 描画材、技法の歴史的発展と教育実践、 『教職課程年報vol. 2』 p8-23 2021 About Opposite Shores、 『Cultural Typhoon in Europe』 p96-98 2022 「絵画」と「染」 - 横断する平面表現について、 『教職課程年報vol. 7』 p92-101 2022 今を生きる人々と育む地域芸能の未来-「保存」から「持続可能性」への転換を志向する場の形成と人材育成報告書、 『沖縄県立芸術大学』 p215-221 2024 『美術は教育』 現代企画室(2024年3月31日発行) p462-480 2025 プロジェクト「message in a bottle」-リサーチ型芸術実践の研究、教育研究支援資金事業報告書、 『沖縄県立芸術大学紀要No.33』 p67-70
絵画基礎 日本画Ⅰ 日本画Ⅱ-I 日本画Ⅱ-II 日本画Ⅲ-I 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	喜多祥泰准教授	2020 「比較により考察する日本絵画の枠組み-現代日本絵画の変容とその可能性について-」 美術教育研究no.25研究ノート(東京芸術大学美術学部発行、23~43頁、単著) 2024 「琉球石灰岩を使用した顔料研究」 沖縄県立芸術大学紀要no.32,2024(沖縄県立芸術大学発行、117~118頁、単著) 2024 視点コラム「琉球石灰岩と琉球岩絵具」 美術の窓7月号2024(生活の友社発行、140~141頁、単著)

<p>絵画基礎</p> <p>日本画 I 日本画 II-I 日本画 II-II 日本画 III-I デザイン (絵) 装丁実習 絵画研究 I 絵画研究 II 絵画課題演習</p>	<p>関谷理准教授</p>	<p>2017 グラフィカルな加工表現における視覚的な伝達効果と平面における活用 教職課程年報vol.2</p>
<p>絵画基礎</p> <p>日本画 I 日本画 II-I 日本画 II-II 装丁実習 絵画研究 I 絵画研究 II 絵画課題演習</p>	<p>平良優季講師</p>	<p>Chie Kyan , Yuki Taira「Research Report on the Current Status and Prospects for Nineteenth-Century Ryukyuan Paintings on Wooden Doors in the Historic Miyara dunchi House」『Journal of Asian Humanities at Kyushu University』vol. 6</p>

(彫刻)		
彫刻 I-I	砂川泰彦教授	2017『Exchange Exhibition Vol.9 女子美術大学×沖縄県立芸術大学』図録 P36-P37 Drawing Clover-素描デッサン 下絵の豊かな表現-
彫刻 II-II		2018『Representation of Asian Sculpture vol.1 アジアの彫刻の現在』図録P12-P13 spring storm II-春の嵐-
彫刻研究 I		2019『Representation of Asian Sculpture vol.2 アジアの彫刻の現在』図録P20-P21 私と植物-彫刻のモチーフとしての植物-
彫刻研究 II		2020 石彫制作を通しての基礎的造形力の育成について
彫刻課題演習		教職課程年報Vol.6 P25-P38
彫刻 I-I	松本隆教授	2016「リアーチェの戦士Aの右足における鋳掛け溶接の再現実験」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』10(単著)
彫刻 I-II		2017「古代ギリシアブロンズ像と現代ネパール金銅仏の鑄型の比較-成分分析と工程報告」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』11(単著)
彫刻 II-I		2018「調査報告 栃木県の鉄仏」『武蔵野美術大学研究紀要』48(共著)
工芸(彫)		2018「リアーチェのブロンズ」における鋳掛け溶接技法の研究-再現実験とその検証-『FUSUS』10号(単著)
鑄造		2018「レッチョ・カラーブリア国立考古博物館蔵「リアーチェの戦士」の鑄型成形技法——再現実験を通じた検証と考察」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』12(単著)
彫刻研究 I		2019「現代ネパールの金銅仏鑄造技法」『武蔵野美術大学研究紀要』50(単著)
彫刻研究 II		2019「平安時代後期・鎌倉時代の多臂金銅仏の構造と鑄造法」『千葉大学教育学部研究紀要』第68巻(共著)
彫刻課題演習		2019「調査報告 ネパールの伝統的仏像鑄造」『工芸の展開-金属工芸鑄金における真土型鑄造法の研究-基盤研究B一般 2015-2018年度 研究成果報告書』(単著)
		2021「ロブピア工房による施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究-オリジナル彫刻断片の総合的分析-」『武蔵野美術大学研究紀要』51(共著)
		2021「古代ギリシアにおける大型ブロンズ彫刻の鑄造技法研究-レッチョ・カラーブリア国立考古博物館蔵「リアーチェのブロンズ(戦士像A・B)」の制作工程の再構成-」『多摩美術大学研究紀要』第35号(単著)
		2021 “Ricostruzione sperimentale della forma dei Bronzi di Riace” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)
		2021 “Saldatura per colata a ovali continui applicata ai Bronzi di Riace. Osservazioni” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)
		2021 “Saldatura per colata a ovali continui applicata ai Bronzi di Riace. Fusione sperimentale” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)
	2021 “L’eventuale “fusione a parte” della gamba sinistra del Bronzo A di Riace” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)	
	2021 “Presunte procedure di costruzione dei Bronzi di Riace” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)	
	2021「金色と鏡-古代ギリシア彫刻からブランクーシへ」『べらべらの彫刻』武蔵野美術大学出版局(共著)	
	2021「那古寺銅造千手観音立像脇手の内部構造解析-X線CTスキャンを利用して-」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』14(共著)	
	2022「千葉県館山市那古寺蔵 銅造千手観音菩薩立像(重要文化財)の造像法研究-調査記録と脇手構造の解析-」『武蔵野美術大学研究紀要』52(共著)	

彫刻Ⅱ-Ⅱ	河原圭佑准教授	<p>2018 彫刻における鍛造技法による金属素材の研究 教職課程年報vol.3</p> <p>2018 『Representation of Asian Sculpture vol.1 アジアの彫刻の現在』 図録P14-P15 mangosteen-鍛金を用いた彫刻表現 -</p> <p>2019 『Representation of Asian Sculpture vol.2 アジアの彫刻の現在-台湾』 図録P22-P23 existence (非鉄金属による立体構成)</p> <p>2022 『Representation of Asian Sculpture vol.3 アジアの彫刻の現在-ベトナム』 図録P32-P35 残塊の先 - 柱 - 金属素材の鍛造による彫刻表現と質感について</p> <p>2019 『沖縄県立芸術大学紀要』第27号 (No.27,P65-P82) 研究ノート「タイ王国の伝統的造形素材の研究 -北タイの仏閣におけるストック技法について-」</p> <p>2021 『沖縄県立芸術大学紀要』第29号 (No.29,P51-P63) 研究ノート「タイ王国の伝統的造形素材(ランナー漆喰)の研究 -ベトナムにおける漆喰調査について-」</p> <p>2021 令和3年度 全国オンライン研修会レポート [テーマ別実践研修] 中学校美術科・高等学校芸術科美術:実施担当 沖縄県立芸術大学 アルミホールを使った彫刻-素材から構想する昆虫の形体-</p> <p>https://j-u-c-a.org/training_report/2022_chuko-bijutsu6/</p>
構成		
鍛造		
彫刻研究Ⅰ		
彫刻研究Ⅱ		
彫刻課題演習		
彫刻Ⅰ-Ⅰ	長尾恵那准教授	<p>2020 木彫における基礎的造形力と技法の習得-1年生を対象とした木彫実習実践記録-,『教職課程年報第6号』、39-49項</p> <p>2021 貞観期の“おかしみ”のある仏像たち~その起源と評価~,『Representation of Asian Sculpture vol.3 アジア彫刻の現在-ベトナム』、38-39項</p> <p>2026 首里城正殿 向拝奥の彫刻物「牡丹に獅子・唐草」復元についての研究 『山口大学教育学部研究論叢』第75巻、255-271項(共著)</p> <p>2026 令和復元における首里城正殿2階御差床「葡萄栗鼠文羽目板」下絵作製について 『沖縄県立芸術大学紀要』 第34号、223-237項</p>
彫刻Ⅰ-Ⅱ		
彫刻Ⅱ-Ⅰ		
彫刻研究Ⅰ		
彫刻研究Ⅱ		
彫刻課題演習		

(芸術学)		
西洋美術史 A	太田泉フロランス講師	<p>2016 戦利品としての聖遺物容器：君主の携帯用パネル型聖遺物容器の成立をめぐる、死生学・応用倫理研究 21巻、206-236頁</p> <p>2016 西欧中世における球形懐炉に関する一考察：聖具から君主の蒐集品へ、地中海学研究39号、5-24頁</p> <p>2016 展覧会評「聖王ルイ」展、西洋美術研究19号、230-242頁</p> <p>2020 ヴァロワ朝フランス王シャルル5世由来の携帯用聖遺物容器《リブレット》の素材と銘文に関する一考察、鹿島美術研究、38号</p> <p>2021A French Royal Reliquary with the Image of the Arma Christi, the so-called Libretto, The Proceedings of the CIHA Florence Congress, pp. 341-343.</p> <p>2022 掌のなかの聖堂—サント=シャペルを持ち運ぶ 聖遺物・聖堂・聖遺物容器の関係性に関する一考察、美術史論叢38号、107-124頁</p> <p>2024 パネル型聖遺物容器の携帯性をめぐる二、三の考察—《リブレット》の技術的特徴を中心に、西洋美術研究 21号、124-135頁</p> <p>2024 [事典項目]12章、「コレクション」、『西洋中世文化事典』、丸善出版</p>
西洋美術史特講		
西洋美術史演習 I		
西洋美術史演習II		
西洋美術史特殊演習I		
西洋美術史特殊演習II		
日本美術史	千葉慶准教授	<p>2016 「日活映画における「自己決定」をめぐるテーマ再考・序説：中平康・蔵原惟繕の作品を中心に」、『千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書』305巻、144-153頁</p> <p>2017 『日活 1971-1988：撮影所が育んだ才能たち』（共編著）、ワイズ出版</p> <p>2018 「公共彫刻は立ったまま眠っている 神武天皇像・慰霊碑・八紘一宇の塔」、小田原のどか編『彫刻1』トボフィル、100-139頁</p> <p>2019 『リアルの追求 映画監督小澤啓一』（編著）、ワイズ出版</p> <p>2021 『日活ロマン・ポルノ入門』、ワイズ出版</p> <p>2023 「もし天皇制モニュメントを叩き壊したかったら」、小田原のどか・山本浩貴編『この国の芸術：《日本美術史》を脱帝国主義化する』、月曜社、395-423頁</p> <p>2026 『永田雅一伝(仮)』、草思社(4月現在校正中)</p> <p>これ以外の業績については以下を参照願います。 https://researchmap.jp/1135</p>
日本美術史特講		
日本芸術批評史研究A		
日本美術史特殊演習 I		
日本美術史特殊演習 II		

<p>東洋美術史</p> <p>東洋美術史特講</p> <p>東洋芸術批評史研究A</p> <p>東洋美術史特殊演習 I</p> <p>東洋美術史特殊演習 II</p>	<p>下野玲子教授</p>	<p>2016 『敦煌仏頂尊勝陀羅尼經变相図の研究』勉誠出版、総355頁</p> <p>2016 會津八一の戦前蒐集品に関する調査報告(7) 泥塔・土塔について、『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』18、21-30頁</p> <p>2017 會津八一の戦前蒐集品に関する調査報告(8) 敦煌塑造浮彫仏像、『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』19、53-62頁</p> <p>2018 (共著)富岡重憲コレクションの仏伝図浮彫に関する基礎的研究、『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』20、27-45頁</p> <p>2018 唐代弥勒菩薩像の一表現：袈裟を着ける菩薩像、肥田路美責任編集『アジア仏教美術論集 東アジア2隋唐』中央公論美術出版、163-184頁</p> <p>2019 中国仏教美術における「白馬朱鬘」、『仏教芸術』4、仏教芸術学会、33-50頁</p> <p>2019 富岡重憲コレクションの別尊雜記断簡について、『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』21、75-88頁</p> <p>2020 富岡重憲コレクション『大般若経』卷第270(東大寺八幡経)について、『早稲田大学會津八一記念博物館』22、49-55頁</p> <p>2021 富岡重憲コレクションおよび近年受贈の寺畑助之丞作品、『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』23、93-102頁</p> <p>2022 (共編著)早稲田大学會津八一記念博物館編『古代中国の神話と祥瑞—武氏祠画像石拓本』早稲田大学會津八一記念博物館(うち9-13頁武氏祠画像石と「神話と祥瑞」理解のために、28-68頁作品解説、77頁武氏祠の動物たち、を執筆)</p> <p>2022 2021年度受贈の車馬・酒宴・楼閣画像石拓本について、『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』24、13-28頁</p> <p>2023 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(1)—九尾狐・鸞・鸚鵡・銀鬘(孔雀・昆吾の劍・玉盃・白瑄)—、『青山学院大学文学部紀要』65、27-49頁(うち31-32頁、34頁、45-49頁を執筆)</p> <p>2024 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(3)—玉龜・玉羊(蒼鳥・青狐)—、『中国文化—研究と教育—』82、79-88頁(うち87-88頁を執筆)</p> <p>2024 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(4)—玉馬・金車・吉利・山車・富貴(瑤瑤・珊瑚・繁封・白鳶・鷄黍・丹甌・玉鬘・高柱・周匝・鸚鵡・鸞鸞)—、『二松學舎大学人文論叢』113、83-148頁(うち89-98頁を執筆)</p> <p>2024 玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注・関連図像(6)—龍負図[河図]・三足烏(景星・一角獸)—、『沖縄県立芸術大学紀要』33、120-105頁</p> <p>2025 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(8)—白馬朱鬘・比翼・脚雲・茲白[駁](真人・曾耳・榮光(景星)・騰黃・騶虞・吉量・白鳩・黃雀)—、『二松學舎大学人文論叢』115、67-139頁</p> <p>2025 中国南北朝時代仏教美術における鳥について—北魏を中心に—、『鹿島美術研究』年報第24号別冊、585-595頁</p> <p>2025 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(9)—文蜃・角鯉・朱草・白象・嘉禾・苜蓿・赤虎・白狼—、『立命館史学』45号139-170頁</p> <p>2025 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(10)—玉英・華平・草芝[周鼎・芝草・神芝]・六足獸(銀・福草・茅三脊)—、『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』19号、97-116頁</p> <p>2025 玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(11)—五老[五星]、獬豸(山呼万歳、駒駟)—、『沖縄県立芸術大学紀要』34号、254(1)-238(17)頁</p> <p>2025 (共著)玲瓏山館叢刻本『稽瑞』翻刻・校注(12)—珊瑚・比目魚(櫻・桑・連閣・雒常・福井・威香・白猴・赤狸・蔓竹・龜)—、『青山学院大学文学部紀要』67号、25-41頁</p> <p>2025 金翅鳥の中国的変容、肥田路美先生古稀記念論文集刊行会編『論集東洋美術跋渉』中央公論美術出版、95-106頁</p> <p>2025 《辟邪絵》に見る疫鬼とそれを滅する神々、大形徹・池内早紀子・山本優紀子編『鬼形の病因論—疫病・疫病観の起源を探る』臨川書店、466-468頁</p>
--	---------------	--

<p>一般芸術学 美学 美学特講 比較美学研究A 比較美学特殊演習Ⅰ 比較美学特殊演習Ⅱ</p>	<p>喜屋武盛也教授</p>	<p>https://researchmap.jp/MP6H</p>
<p>西洋美術史B 芸術学特講 比較芸術学特殊研究A</p>	<p>土屋誠一教授</p>	<p>2017『批評 前／後 継承と切断』ユミコチバアソシエイツ(共著)</p> <p>2017『現代アート10講』武蔵野美術大学出版局(共著)</p> <p>2017『絵画検討会2016』アートダイバー(共著)</p> <p>2017『辺境芸術最前線』秋田公立美術大学(共著)</p> <p>2018『芸術論の現在 沖縄からの発信 沖縄県立芸術大学開学30周年記念論集』沖縄県立芸術大学(共編著)</p> <p>2018『河口龍夫「一九六三年の銅版画より」』SNOW Contemporary(共著)</p> <p>2020『真喜志勉 TOM MAX Turbulence 1941-2015 Document／記録集』多摩美術大学美術館(共著)</p> <p>2020『美学の事典』丸善出版(共著)</p> <p>2022『ワークブック「アート×社会教育」 事業『アーティストと開発する社会教育プログラム』』地域サポートわかさ(共著)</p> <p>2023『沖縄画 8人の美術家による、現代沖縄の美術の諸相』アートダイバー(共編著)</p> <p>2016 一九四五以前の「沖縄美術」?、『ゲンロン3 脱戦後美術』</p> <p>2019「波多野泉の彫刻作品について 今日における「彫刻」の位置から」『上條文穂と波多野泉 現代彫刻展 令和元年度 沖縄県立博物館・美術館企画展』沖縄県立博物館・美術館</p> <p>2020「野村浩『Merandi』によせて」野村浩『Merandi』</p> <p>2020「山城知佳子《あなたをくぐり抜けて》に寄せて」(「山城知佳子「あなたをくぐり抜けて」記録映像上映会」(2020年2月7日～9日、INTERFACE-Shomei Tomatsu Lab.)会場にて配布されたテキスト)</p> <p>2020「疑似恋愛的五角形的美 『ツルネ 風舞高校弓道部』論」『アニメクリティーク』10号</p> <p>2020「鴨志田一試論 『Just Because!』を中心に」『サブカル・ポップマガジン まぐま』PB11号</p> <p>2021「コロナウイルス体制以降における美術・再考(1-3)」『レビューとレポート』第16、17、25号</p> <p>2021「コロナ禍における「おまもり」としての画集 岡崎乾二郎『TOPICA PICTUS とびか びくたす』」『芸術批評誌 [リア]』46号</p> <p>2021「『issues』、そして作家との共闘 2000年代 集団的活動の模索」『美術評論家連盟会報』21号</p> <p>2022「須田国太郎の絵画作品における芸術理論的背景の研究 「京都学派」との相関関係を中心に」『鹿島美術研究 年報別冊』38号</p> <p>2023「棟方志功における、その宗教観と、生命に関する思想序説」『沖縄県立芸術大学紀要』31号</p> <p>2024「平良孝七展」・「ミュージアム」・「歴史」の抗争についての一私見『越境広場』13号</p>

(デザイン)		
デザイン I デザイン II-II デザイン III-II 視覚伝達デザイン研究 I A 視覚伝達デザイン研究 I B 視覚伝達デザイン研究 II A 視覚伝達デザイン研究 II B デザイン課題演習	仲本賢教授	2017 肖像写真展における創作ノート-美術交流事業「ジュラ-沖縄」の実施の経緯と作品制作の報告-教職課程年報vol.2 2018「人看板計画 創作ノート」写真を使用したパブリックアートの実践報告 大学紀要
デザイン I デザイン II-II デザイン III-II 視覚伝達デザイン研究 I A 視覚伝達デザイン研究 I B 視覚伝達デザイン研究 II A 視覚伝達デザイン研究 II B デザイン課題演習	赤嶺雅教授	2017 視覚伝達機能を活用したビジュアル表現-実践的なデザイン展開のための基礎的理解- 教職課程年報vol.2
立体造形(デ) 空間構成 デザイン II-I デザイン II-II デザイン III-I デザイン III-II 生活環境デザイン研究 I A 生活環境デザイン研究 I B 生活環境デザイン研究 II A 生活環境デザイン研究 II B デザイン課題演習	宮里武志教授	2018 実践的空間構成の考察と沖縄の景観に配慮した環境デザイン-インテリアデザイン・建築デザイン・ランドスケープ- 教職課程年報vol.3 2024『教職課程年報vol.9』インテリアコーディネートにおける他分野の作品との相互関係の検証と総括(共著) 2026『JIAマガジン 445』スタジオ拝見 大学で教える建築家の建築家教育 公益社団法人 日本建築家協会
素描(デ) デザイン II-I デザイン II-II デザイン III-I デザイン III-II 視覚伝達デザイン研究 I A 視覚伝達デザイン研究 I B 視覚伝達デザイン研究 II A 視覚伝達デザイン研究 II B デザイン課題演習	又吉浩教授	2018 映像表現による情報メディアデザインの表現と技法-アニメ動画・キャラクター・絵本・Web・ミックスメディアの展開- 教職課程年報vol.3
立体造形(デ) デザイン II-I デザイン III-I デザイン III-II 生活環境デザイン研究 I A 生活環境デザイン研究 I B 生活環境デザイン研究 II A 生活環境デザイン研究 II B デザイン課題演習	高田浩樹准教授	2021 沖縄県立芸術大学紀要「竹素材の研究と茶筌椅子の制作」No. 29 P95-109

デザインⅡ-I デザインⅡ-II デザインⅢ-I 生活環境デザイン研究ⅠA 生活環境デザイン研究ⅠB 生活環境デザイン研究ⅡA 生活環境デザイン研究ⅡB デザイン課題演習	赤塚美穂子講師	2021 インテリア空間トレンドと照明デザインの変遷—マテリアル及びフォルム・構成に見るトレンド反映要素—沖縄県立芸術大学紀要No.29 83-93頁 2021「アイデアから実現までのデザインプロセスとアプローチ方法の考察」—暮らしを彩るプロダクト・目的に応じた構造提案—教職課程年報vol.9(36-49頁)
(工芸・染織)		
工芸Ⅱ 染Ⅰ 染Ⅱ 染Ⅱ-I 染Ⅱ-II 版画 染研究Ⅰ 染研究Ⅱ	名護朝和教授	2018 沖縄の伝統的工芸技法に関する制作研究—藍型(エーガタ)による染色表現—教職課程年報vol.3 2022 金武町屋嘉の芸能衣装の再現制作から考察する古紅型技法、沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第34号 2023 「現代沖縄諸芸術の変遷」要旨集 第10回現代沖縄の染 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第35号 P.99-100
工芸Ⅱ 織Ⅰ 織Ⅱ 織Ⅱ-I 織Ⅱ-II デザインと素材 織研究Ⅰ 織研究Ⅱ	花城美弥子教授	2016 着尺制作から着物への立体的表現の実践に向けて—織・着物ファッションショー「縞・着物の粋」—教職課程年報vol.1 2017 織物設計・デザインに必要な基礎的情報のデータ化—創作テキスタイルデザインの展開に向けての実践資料—教職課程年報vol.2 2018 羊毛の繊維素材としての特質を用いたデザイン表現研究—帽子のデザイン・作品制作に向けての実践資料—教職課程年報vol.3
工芸Ⅰ 織Ⅰ 織Ⅱ 織Ⅱ-I 織Ⅱ-II 織研究Ⅰ 織研究Ⅱ	久保田寛子准教授	2016 「日本への緋の伝播経路と歴史、それぞれの位置づけについて」—沖縄の緋と日本の緋の比較—広島市立大学 芸術学研究科 修士論文 2018 「経緋ずらし技法の作品と、その制作での藍及び染料について」天然の色:天然染料顔料会議報告p.10-13 2021 「緋技法による織とその意味について」—『つながる糸ひろがる布 2020-2021』p.5 2023 広島市立大学審査博士学位論文「緋織をとりまく言葉と数、その意匠について—箆の単位と緋織技法の表現—」 2024 広島県主催「第12回新県美展(第76回広島県美術展)図録 工芸系ページ 審査評掲載
工芸Ⅰ 染Ⅰ 染Ⅱ 染Ⅱ-I 染Ⅱ-II 染研究Ⅰ 染研究Ⅱ	宇良京子准教授	2022 金武町屋嘉の芸能衣装の再現制作から考察する古紅型技法 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第34号 2023 型染による着物制作—着物制作授業の実践記録と考察—教職課程年報Vol.9

(工芸・陶漆芸)		
工芸 I 陶芸 I 陶芸 II 陶芸 II-I 陶芸 II-II 立体造形(工) 陶磁器研究 I 陶磁器研究 II	山田聡教授	2017 原材料研究 ―伝統的なシルグスイのものと製法 検証―(共著) 教職課程年報vol.2 2023 「現代沖縄諸芸術の変遷」要旨集 第12回現代沖 縄の陶芸 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第35 号P.101-102
デザイン(工) 立体構成 工芸 II 漆芸 I 漆芸 II 漆芸 II-I 漆芸 II-II 漆工研究 I 漆工研究 II	當眞茂教授	2016 「琉球漆芸の歴史と技法およびデザイン」琉球漆 芸の加飾 螺鈿・堆錦・沈金―ワークショップ「漆工品 の保存と修復」2016 東京文化財研究所 2017 18～19世紀の琉球漆器復元をとおしての、これか らの漆器デザインへの展望―撮影機器やコンピュータを 使用した調査・研究 及び 復元制作 ― 教職課程年報 vol.2 2018 創作理念 研究概要 ― 沖縄・台湾芸術大学 交 渉 2018 琉球漆芸の過去、現在、未来 ―「三国一漆」展図 録 韓中日協力事務局 2021 琉球漆器の沈金技法に関する運刀法の研究-15・ 16世紀を中心に- ― 第43号漆工史 漆工史学会 2023 「現代沖縄諸芸術の変遷」要旨集 第14回現代沖 縄の漆芸 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第35 号P.103-104
工芸 II 陶芸 I 陶芸 II 陶芸 II-I 陶芸 II-II 陶磁器研究 I 陶磁器研究 II	島袋克史准教授	2023 陶芸基礎②授業に関する実践と一考-陶磁器の 基礎制作を通してその構造を知る- 教職課程年報Vol.9
工芸 I 漆芸 I 漆芸 II 漆芸 II-I 漆芸 II-II 漆工研究 I 漆工研究 II	松崎森平講師	2016年7月「平成28年度栽培保育管理研修報告」単著 日本文化財協会会報「漆文化」第131号 P6～8 2017年6月「備中漆」岡山県新見市、真庭市の植栽地 単 著 日本文化財協会会報「漆文化」第132号 P14～17 2026年「漆芸 II (蒔絵) 授業の実践記録と考察」―教職課 程年報Vol.11

科目名	担当教員	科目に対応する主な業績
(音楽表現第1)		
ソルフェージュⅠ(表) ソルフェージュⅡ(表) ソルフェージュⅢ(表) ソルフェージュⅣ(表) 和声Ⅰ(表) 和声Ⅱ(表) 和声Ⅲ(表) 和声Ⅳ(表) 作曲実技Ⅰ 作曲実技Ⅱ 作曲実技Ⅲ 作曲実技Ⅳ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 作曲演習Ⅲ 作曲演習Ⅳ 楽曲分析Ⅰ(表) 楽曲分析Ⅱ(表) 作曲実習Ⅰ 作曲実習Ⅱ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 楽曲分析Ⅰ(表) 楽曲分析Ⅱ(表)	塚本一実教授	2021『180の旋律聴音問題集』(共著)全体(58ページ)の1/2 (株)東京ハッスルコピー 2021 音楽の基礎『はじめての和声学【改訂版】』～演奏家及び東京 藝大楽理科受験のために～ (株)音楽舎 2016『左手のための小品集～母に捧げる子守唄～』/『母に捧げる子 守唄』P.9～11 (株)音楽之友社 2017『中学校歌唱共通教材「夏の思い出」の分析』～作曲家の視点 から～ 常葉大学短期大学部紀要第48号P.129～143 2018『新しい子どもの歌2018』/『虹色の気球にのって』P.15～17 (株)ハンナ 2019『新しい子どもの歌2019』/『千羽鶴』P.26～27 (株)ハンナ 2020『新しい子どもの歌2020』/『9がつのおくりもの♪』P.44～45 (株)ハンナ 2021『新しい子どもの歌2018』/『ぼくはぞうだぞう』P.156～160 (株)ハンナ 2021『新しい子どもの歌2018』/『ともだちになろうよ!』P.106～108 (株)ハンナ
声楽実技Ⅰ 声楽実技Ⅱ 声楽実技Ⅲ 声楽実技Ⅳ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 合唱Ⅲ 合唱Ⅳ 副科声楽Ⅰ(表) 副科声楽Ⅱ(表) 副科合唱Ⅰ 副科合唱Ⅱ 声楽研究Ⅰ 声楽研究Ⅱ オペラ総合実習A-Ⅰ オペラ総合実習A-Ⅱ 声楽特殊研究A 声楽特殊研究B 協奏曲研究	山下牧子教授	2023 歌唱における身体の使い方について ― 最初に学ぶべき姿勢と 呼吸についての実践的アプローチ ― 教職課程年報 Vol.9

<p>声楽実技Ⅰ</p> <p>声楽実技Ⅱ</p> <p>声楽実技Ⅲ</p> <p>声楽実技Ⅳ</p> <p>合唱Ⅰ</p> <p>合唱Ⅱ</p> <p>合唱Ⅲ</p> <p>合唱Ⅳ</p> <p>副科声楽Ⅰ(表)</p> <p>副科声楽Ⅱ(表)</p> <p>副科合唱Ⅰ</p> <p>副科合唱Ⅱ</p> <p>声楽研究Ⅰ</p> <p>声楽研究Ⅱ</p> <p>オペラ総合実習A-Ⅰ</p> <p>オペラ総合実習A-Ⅱ</p> <p>声楽特殊研究A</p> <p>声楽特殊研究B</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>山内昌也准教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察— モーツァルトレクイエムによる試み—(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2022 ソルフェージュⅠ(琉)の授業についての—考察— —琉球芸能専攻学生のソルフェージュ教育を通して見えてくる事—(単 著) 教職課程年報vol.8</p>
<p>ソルフェージュⅠ(表)</p> <p>ソルフェージュⅡ(表)</p> <p>ソルフェージュⅢ(表)</p> <p>ソルフェージュⅣ(表)</p> <p>和声Ⅰ(表)</p> <p>和声Ⅱ(表)</p> <p>和声Ⅲ(表)</p> <p>和声Ⅳ(表)</p> <p>作曲実技Ⅰ</p> <p>作曲実技Ⅱ</p> <p>作曲実技Ⅲ</p> <p>作曲実技Ⅳ</p> <p>作曲演習Ⅰ</p> <p>作曲演習Ⅱ</p> <p>作曲演習Ⅲ</p> <p>作曲演習Ⅳ</p> <p>楽曲分析Ⅰ(表)</p> <p>楽曲分析Ⅱ(表)</p> <p>作曲実習Ⅰ</p> <p>作曲実習Ⅱ</p> <p>作曲演習Ⅰ</p> <p>作曲演習Ⅱ</p> <p>楽曲分析Ⅰ(表)</p> <p>楽曲分析Ⅱ(表)</p>	<p>土井智恵子准教授</p>	<p>2019 担当授業科目「楽曲分析」におけるフォルマシオン・ミュージカルの 試み—オリヴィエ・メシアンの分析を中心に— 教職課程年報vol.4</p> <p>2017 博士学位論文「B.A.ツインマーマンの音楽的時間構造—晩年の 作品群を中心に—」エリザベト音楽大学</p>
<p>声楽実技Ⅰ</p> <p>声楽実技Ⅱ</p> <p>声楽実技Ⅲ</p> <p>声楽実技Ⅳ</p> <p>合唱Ⅰ</p> <p>合唱Ⅱ</p> <p>合唱Ⅲ</p> <p>合唱Ⅳ</p> <p>副科声楽Ⅰ(表)</p> <p>副科声楽Ⅱ(表)</p> <p>副科合唱Ⅰ</p> <p>副科合唱Ⅱ</p> <p>声楽研究Ⅰ</p> <p>声楽研究Ⅱ</p> <p>オペラ総合実習A-Ⅰ</p> <p>オペラ総合実習A-Ⅱ</p> <p>声楽特殊研究A</p> <p>声楽特殊研究B</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>松田奈緒美准教授</p>	<p>2017 創作歌曲「鐘」—組踊「執心鐘入」歌舞伎「娘道成寺」によせて — 教職課程年報vol.2</p>

(音楽表現・第2)		
管打楽実技 I 管打楽実技 II 管打楽実技 III 管打楽実技 IV 管打合奏 I 管打合奏 II 管打合奏 III 管打合奏 IV 器楽合奏 I 器楽合奏 II 指揮法(表) 室内楽実習 I 管弦打楽研究 I 管弦打楽研究 II オーケストラ研究 I オーケストラ研究 II 協奏曲研究	阿部雅人教授	2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題 —2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会から—(共著) 教職課程年報vol.1 2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法について—2017年 度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にして—(共著) 教職課 程年報vol.2 2017 室内楽から得られる実技指導への応用についての—考察—木 管五重奏の実践から—(共著) 教職課程年報vol.2
副科ピアノI(表) 副科ピアノII(表) 副科ピアノIII(表) 副科ピアノIV(表) ピアノ実技 I ピアノ実技 II ピアノ実技 III ピアノ実技 IV ピアノ重奏 I ピアノ重奏 II 伴奏法 I 伴奏法 II 伴奏法 III 伴奏法 IV ピアノ研究 I ピアノ研究 II 声楽曲伴奏法 室内楽実習 I 協奏曲研究	小杉裕一教授	2019 大学におけるピアノ協奏曲作品の学習意義 教職課程年報 vol.4
弦楽実技 I 弦楽実技 II 弦楽実技 III 弦楽実技 IV 弦楽合奏 I 弦楽合奏 II 弦楽合奏 III 弦楽合奏 IV 室内楽実習 I 管弦打楽研究 I 管弦打楽研究 II オーケストラ研究 I オーケストラ研究 II 協奏曲研究	林裕教授	2018年11月16日 チェロが歌い上げるオペラ・ファンタジーの世界(単 著)Naxos Japan,Inc.

<p>弦楽実技Ⅰ</p> <p>弦楽実技Ⅱ</p> <p>弦楽実技Ⅲ</p> <p>弦楽実技Ⅳ</p> <p>弦楽合奏Ⅰ</p> <p>弦楽合奏Ⅱ</p> <p>弦楽合奏Ⅲ</p> <p>弦楽合奏Ⅳ</p> <p>室内楽実習Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅱ</p> <p>オーケストラ研究Ⅰ</p> <p>オーケストラ研究Ⅱ</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>岡田光樹教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察ーモーツァルトレクイエムによる試みー(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2017『ヴァイオリンと三線のための『ヴィヴァルディ:「四季」より<冬>』(単著) ファウエム・ミュージック・コーポレーション</p> <p>2017『ヴァイオリンと三線のための「聖しこの夜」』(単著) ファウエム・ミュージック・コーポレーション</p> <p>2017 器楽合奏における指導法の研究ー弦楽合奏を例にー(共著) 教職課程年報vol.2</p> <p>2024 合奏教育における双方向型(対話型)授業に向けた試行的研究ー弦楽合奏を例としてー(共著) 教職課程年報vol.9</p>
<p>管打楽実技Ⅰ</p> <p>管打楽実技Ⅱ</p> <p>管打楽実技Ⅲ</p> <p>管打楽実技Ⅳ</p> <p>管打合奏Ⅰ</p> <p>管打合奏Ⅱ</p> <p>管打合奏Ⅲ</p> <p>管打合奏Ⅳ</p> <p>器楽合奏Ⅰ</p> <p>器楽合奏Ⅱ</p> <p>室内楽実習Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅱ</p> <p>オーケストラ研究Ⅰ</p> <p>オーケストラ研究Ⅱ</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>澤村(井野邊)康恵教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察ーモーツァルトレクイエムによる試みー(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題ー2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会からー(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法についてー2017年度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にしてー(共著) 教職課程年報vol.2(2)</p> <p>2017 管打楽における実技指導についてー平成29年度沖縄県吹奏楽連盟主催実技講習会からー(単著) 教職課程年報vol.2(2)</p> <p>2017 室内楽から得られる実技指導への応用についてのー考察ー木管五重奏の実践からー(共著) 教職課程年報vol.2(2)</p> <p>2023 沖縄県における早期教育プロジェクト導入への研究(1)ー管打楽器の指導を通してー(共著) 教職課程年報vol.8</p> <p>2024 沖縄県における早期教育プロジェクト導入への研究(2)ー管打楽器の指導を通してー(共著) 教職課程年報vol.9</p>
<p>管打楽実技Ⅰ</p> <p>管打楽実技Ⅱ</p> <p>管打楽実技Ⅲ</p> <p>管打楽実技Ⅳ</p> <p>管打合奏Ⅰ</p> <p>管打合奏Ⅱ</p> <p>管打合奏Ⅲ</p> <p>管打合奏Ⅳ</p> <p>器楽合奏Ⅰ</p> <p>器楽合奏Ⅱ</p> <p>指揮法(表)</p> <p>室内楽実習Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅱ</p> <p>オーケストラ研究Ⅰ</p> <p>オーケストラ研究Ⅱ</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>倉橋健教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察ーモーツァルトレクイエムによる試みー(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題ー2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会からー(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法についてー2017年度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にしてー(共著) 教職課程年報vol.2</p> <p>2022 沖縄県における早期音楽教育プロジェクト導入ー管打楽器の指導を通してー(共著) 教職課程年報vol.8</p> <p>2023 沖縄県における早期音楽教育プロジェクト導入ー管打楽器の指導を通してー(共著) 教職課程年報vol.9</p>

<p>副科ピアノⅠ(表)</p> <p>副科ピアノⅡ(表)</p> <p>副科ピアノⅢ(表)</p> <p>副科ピアノⅣ(表)</p> <p>ピアノ実技Ⅰ</p> <p>ピアノ実技Ⅱ</p> <p>ピアノ実技Ⅲ</p> <p>ピアノ実技Ⅳ</p> <p>ピアノ重奏Ⅰ</p> <p>ピアノ重奏Ⅱ</p> <p>伴奏法Ⅰ</p> <p>伴奏法Ⅱ</p> <p>伴奏法Ⅲ</p> <p>伴奏法Ⅳ</p> <p>ピアノ研究Ⅰ</p> <p>ピアノ研究Ⅱ</p> <p>ピアノ特殊研究</p> <p>声楽曲伴奏法</p> <p>室内楽実習Ⅰ</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>小沢(小澤)麻由子教授</p>	<p>2016 学生による演奏機会の創造と実践―「ピアノ演奏実習」の実施報告と成果の検証― 教職課程年報vol.1</p> <p>2017 ドビュッシー 前奏曲集第1巻 演奏の手引きとその指導法―デュラン社新版への考察①― 教職課程年報vol.2</p> <p>2018 ドビュッシー 前奏曲集Ⅰ CD「小沢麻由子プレイズドビュッシー」 曲目解説(WWCC-7875 LIVENOTES) P4~7</p> <p>2021ドビュッシー 練習曲集・前奏曲集Ⅱ CD「小沢麻由子プレイズドビュッシーⅡ」 曲目解説(WWCC -7943-4 LIVENOTES) P2~6</p> <p>2022 曲目解説 沖縄県立芸術大学奏楽堂演奏会「ドビュッシーの室内楽」P3~4</p>
<p>管打楽実技Ⅰ</p> <p>管打楽実技Ⅱ</p> <p>管打楽実技Ⅲ</p> <p>管打楽実技Ⅳ</p> <p>管打合奏Ⅰ</p> <p>管打合奏Ⅱ</p> <p>管打合奏Ⅲ</p> <p>管打合奏Ⅳ</p> <p>器楽合奏Ⅰ</p> <p>器楽合奏Ⅱ</p> <p>室内楽実習Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅰ</p> <p>管弦打楽研究Ⅱ</p> <p>オーケストラ研究Ⅰ</p> <p>オーケストラ研究Ⅱ</p> <p>協奏曲研究</p>	<p>屋比久(米須)理夏准教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察―モーツァルトレクイエムによる試み―(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題―2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会から―(共著) 教職課程年報vol.1</p> <p>2016 打楽器基礎練習プログラムの開発実践レポート その1―小学校における指導実践―教職課程年報vol.1</p> <p>2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法について―2017年度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にして―(共著) 教職課程年報vol.2</p> <p>2017 器楽(打楽器)指導法についての考察―吹奏楽部における打楽器基礎練習の実態調査を通して― 教職課程年報vol.2</p> <p>2019 打楽器を用いた活動支援の可能性の検証―不登校の児童生徒を対象にした自立援助センターにおける実践を通して― 教職課程年報vol.4</p> <p>2022 沖縄県における早期音楽教育プロジェクト導入への研究(1)―管打楽器の指導を通して― 教職課程年報vol.8(共著)</p> <p>2023 沖縄県における早期音楽教育プロジェクト導入への研究(2)―管打楽器の指導を通して― 教職課程年報vol.9(共著)</p>

ソルフェージュⅠ(表) ソルフェージュⅡ(表) ソルフェージュⅢ(表) ソルフェージュⅣ(表) 副科ピアノⅠ(表) 副科ピアノⅡ(表) 副科ピアノⅢ(表) 副科ピアノⅣ(表) ピアノ実技Ⅰ ピアノ実技Ⅱ ピアノ実技Ⅲ ピアノ実技Ⅳ ピアノ重奏Ⅰ ピアノ重奏Ⅱ 伴奏法Ⅰ 伴奏法Ⅱ 伴奏法Ⅲ 伴奏法Ⅳ ピアノ研究Ⅰ ピアノ研究Ⅱ 声楽曲伴奏法 室内楽実習Ⅰ 協奏曲研究	大城英明准教授	2017 研究ノート:パノン主調ペンソールの簡略化表記について—ピアノ初心者のスケール学習の軽減化のために— 教職課程年報 Vol. 2 (6) 2021 研究ノート:演奏における自作編曲版アンサンブルの追究—サン＝サーンス作曲《死の舞踏》を事例として— 教職課程年報 Vol. 7
管打楽実技Ⅰ 管打楽実技Ⅱ 管打楽実技Ⅲ 管打楽実技Ⅳ 管打合奏Ⅰ 管打合奏Ⅱ 管打合奏Ⅲ 管打合奏Ⅳ	江戸聖一郎講師	2024 CD「コーベール フルートとピアノのための作品全集」ライナーノート pp.18～27 2024 江戸聖一郎フルート・リサイタル「異界への誘い」曲目解説 pp.3～5 2022 「フルートの名レパートリー 無伴奏から吹奏楽まで」バンド・ジャーナル 3月号 pp.50～51 2025 曲目解説 沖縄県立芸術大学奏楽堂演奏会「木管五重奏 - もう一つの吹奏楽」pp.2～3
(琉球芸能)		
琉球古典音楽実技Ⅰ 琉球古典音楽実技Ⅱ 関連歌三線実技Ⅰ 関連歌三線実技Ⅱ 地謡実技Ⅰ 地謡実技Ⅱ 琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ	仲嶺伸吾教授	2017 琉球古典音楽安富祖流の伝承方法と今後の課題—作田節に様式譜を付ける— 教職課程年報vol.2 2021組踊の略式上演方法についての考察 —琉球古典音楽奏者の新たな略式上演方法の可能性— 教職課程年報vol.7
琉球古典音楽実技Ⅰ 琉球古典音楽実技Ⅱ 関連歌三線実技Ⅰ 関連歌三線実技Ⅱ 地謡実技Ⅰ 地謡実技Ⅱ 琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ	山内昌也教授	2016 琉球古典音楽と四季 教職課程年報vol.1 2017 琉球古典音楽「かぎやで風節」の表現法と分析—「演奏の手引き工四」と「声楽練習用楽譜」の構築— 教職課程年報vol.2.2 2021 中学校音楽教科書執筆「Music Study」音楽ワーク2・3上 沖縄県資料 株式会社 学友館 2022 CD「溪の響Ⅲ」琉球古典舞踊～女踊～CDブック解説 一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 2021 写真集 執筆「琉球の美」—首里城で感じるホンモノのモノ— 一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 2021「おきげい出前コンサートシリーズ」備忘録—音楽学部創設25-30周年記念事業「OMPRO」沖縄県庁・首里城公演コンサート— 沖縄県立芸術大学紀要No29 2020 「芸術」の必要性 沖縄声楽発声研究会会報第一号
琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ	比嘉いずみ教授	2022 「海外でのワークショップによる琉球舞踊教習の実践と課題」『沖縄芸術の化学』第34号
琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ	阿嘉修准教授	2021 組踊『唱本』考案研究 沖縄県立芸術大学教育研究支援資金

い

<p>琉球古典音楽実技Ⅰ 琉球古典音楽実技Ⅱ 関連歌三線実技Ⅰ 関連歌三線実技Ⅱ 地謡実技Ⅰ 地謡実技Ⅱ 琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ</p>	<p>新垣俊道准教授</p>	<p>2016 組踊「花売の縁」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2016 「女性音楽家の会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2017 「琉球舞踊特選会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2017 「琉球舞踊鑑賞会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2018 「創作舞踊」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2019 寄稿「野村流保存会工工四の変遷と奏法の変化『十七八節』の「撥捌き」記号を中心に」 沖縄芸能協会創立50周年記念誌 2020 「琉球舞踊公演 春夏秋冬を舞う」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2020 「琉球舞踊公演 琉球舞踊鑑賞会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2022 組踊「二童敵討」解説 国立劇場おきなわステージガイド</p>
<p>琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ</p>	<p>嘉数道彦准教授</p>	<p>2016 「新作組踊『初桜』作・演出のことば」 国立劇場おきなわステージガイド 2017 「古典女七踊りを舞う 解説」 安座間本流大北満之会新垣満子第二回独演会パンフレット 2019 「組踊300年 国立劇場おきなわと組踊」 月刊文化財 2020 「新作組踊『春時雨』作・演出のことば」 国立劇場おきなわステージガイド 2021 「美らなる島の歌と踊り 演目解説」 世田谷文化財団シリーズ和・華・調 琉球芸能特別公演パンフレット 2022 「エッセイ「譲らない最後の一刻」」 大城立裕追悼論集</p>

(音楽文化)		
民族音楽学A	小西潤子教授	2025a「音楽探究『太平洋の音楽』』『季刊音楽鑑賞教育』62, pp. 43-45.
民族音楽学B		2025b「パラオ・日本・沖縄を繋ぐ3つの日本語歌謡の調査研究と歌の再創造を通じての記憶の継承」カワイサウンド技術音楽振興財団機関誌『サウンド』41, pp. 20-24
演習 I		2025c「パラオで生まれた《パラオの花々》《緑の島の墓》《べ島の桜を讃える歌》—その歌詞の解釈と成立及び普及とその背景に関する考察—」共著者: 平田あゆみ 『ムーサ』27, pp. 1-16.
演習 II		2025d「オセアニア音楽史概論」日本音楽学会編『音楽史事典』丸善出版, pp. 358-361.
原典講読		2025e「太平洋諸国の儀礼と音楽」日本音楽学会編『音楽史事典』丸善出版, pp. 358-361.
民族音楽学研究		2024a「中学校音楽科の単元計画における総合的な学習—本学学生を交えた双方向的な応用民族音楽学的実践による—」『教職課程年報』第10号, pp. 21-35.
課題演習		2024b「大分県における口説盆踊りの音楽構造と継承—杵築市大田および山香の事例を中心に—」『ムーサ』26, pp. 27-43.
		2023a「ハツサイロン—マリアナ諸島の行進踊りの身体的記憶と竹富島での発展」月刊『やいま』343, pp. 18-27.
		2023b “Like the Growth Rings of a Tree: A Socio-ecological Systems Model of Past and Envisioned Musical Change in Okinawa, Japan.” 共著者: James Edwards, Aaron S. Allen and Jeff Todd Titon eds., Sounds, Ecologies, Musics. Oxford University Press, pp. 41-67.
		2023c ““The sound remains: archiving the senses.” 共著者: Rupert Cox Phillip Vannini ed., The Routledge International Handbook of Sensory Ethnography. Routledge, pp. 401-413.
		2023d “Sea and Ocean as Fountains of Islanders’ life and Creative Activities: An Ecological Perspective to Confront the Global Crisis.” Vol. 3 (2023): Proceedings Bali-Bhuwana Waskita: Global Art Creativity Conference, pp. 1-12. ISSN: 3026-233X. Published by UPT Pusat Penerbitan LP2MPP ISI Denpasar. Managed by Institut Seni Indonesia Denpasar Jl. Nusa Indah, Sumerta, East Denpasar, Denpasar City, Bali 80235.
		2023e「大分県内の目連物盆踊り口説の現状とその詞章」『ムーサ』25, pp. 45-62.
		2022a「ウチナーンチュの音声コミュニケーションとチムグクル [Nuchi du takara: Sound as a Memory of Shuri Castle] Angus Carlyle, Rupert Cox, and Kozo Hiramatsu with Junko Konishi and Nicholas Friedman, Zawawa: Listening to the Aftermaths of Conflicts in Okinawa. Berlin: Archive Books, pp. 268-275.
	2022b「ライナーノート『くちの杜100年プロジェクト in 読谷』をめぐる6/100(2017-2022)年の記録」『ムーサ』24: 43-53.	
	2021a「北陸から沖縄へのモノの流れを手がかりとした民俗芸能流転の可能性—『目連尊者地獄めぐり系チヨンガレ』と『念仏歌系エイサー』の詞章比較による—」後藤明監修, 大西秀之編『モノ・コト・コトバの人類史—後藤明先生退職記念論集—』雄山閣出版, pp. 181-200.	
	2021b「琉球古典女踊り『柳』にみる日琉の往来と中国からの影響—『天川』との歌詞、拍節構造、下肢の動作の比較分析による—」『ムーサ』23: 29-40.	
	2021c「応用音楽学的実践としての山口修写真コレクションのデータベース化に向けて—民族音楽学の成立概略史と1970年代沖縄・奄美の楽器の写真を手がかりに—」『国立民族学博物館研究報告』46-1: 99-130.	
	2020d「フィールドで聴く小笠原の音楽」東京都立大学小笠原研究委員会編『世界自然遺産小笠原諸島—自然と歴史文化』, 朝倉書店, p.133-144.	
	2020a「『小笠原盆踊り』の成立と発展」『小笠原研究年報』43:51-70.	
	2020b 'From Local Media to Vending Machines: Innovative ways of sustaining Okinawa's shimakutuba and island culture', Shima 14-1: 231-251.	
	2020c 'Tracing Ogasawaran Songs, Dances and Musical Instruments', Global Environmental Research 23-1 & 2:69-72.	

		<p>2020d 「沖縄県竹富島仲筋集落の余興芸能『ハッサイロン』に関する一考察—沖縄・小笠原の伝わったマイクロネシアの行進踊りの系譜とその音楽表現を中心に」『南島文化』v42,p.83-102.</p> <p>2020e 「チョンダラーとエイサーの歴史再考のための除雪—北陸から琉球への人とモノの流れを手がかりに—」『ムーサ』21: 39-53.</p> <p>2019a 「パラオの歌謡ジャンル・デレベエシールと〈アルモノシゴト〉の集会的記憶」『パラオ・日本外交関係樹立25周年記念誌—平和と友好を祝して』駐日パラオ共和国大使館, pp.52</p> <p>2019b 「小笠原に伝播した歌—時間と空間を超えたマイクロネシアの混濁文化」石森大知・丹羽典生編著『太平洋の歴史を知るための60章』明石書店, pp. 307-311,</p> <p>2019c 'Champru as a cultural strategy of sustainability: focusing on the Okinawanperforming arts in Nanyo', Asian Musicology 2019 v. 29, pp. 35-62.</p> <p>2019d 「芸能の伝播と創造的伝承をめぐって—南洋群島と小笠原」長嶋俊介編著 『日本ネシア論』別巻環25, 藤原書店, pp.134-136..</p> <p>2019e 「沖縄と世界をリンクする芸能と余興の文化」長嶋俊介編著 『日本ネシア論』別巻環25, 藤原書店, pp.102-105.</p> <p>2018a 「沖縄に伝わったマイクロネシアの行進踊りの様式比較」『開学30周年記念論集』編集委員会編 『沖縄県立芸術大学開学30周年記念論集 芸術論の現在 沖縄からの発信』, pp.51-72.</p> <p>2018b 「〈ていんさぐぬ花〉のアレンジと沖縄らしさに関する調査 —音楽科における「郷土の音楽」指導のために—」沖縄県立芸術大学『教職課程年報』vol. 3, 195-207.</p> <p>2017a. 'A Fleeting Aquapelago: A Theoretical Consideration of The Japanese Presence in The Torres Strait 1880s-1940s', South Pacific Studies 37-2, 71-86.</p> <p>2017b 「松岡静雄が公刊したマイクロネシア民謡と手稿『南島』の比較分析—沖縄県出身の南洋移民が耳にした歌の記録をめぐって—」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』18, 31-50.</p> <p>2016 「消えたサウンドスケープ—戦前サイパン・ガラバン街で聴かれた音と沖縄県出身者の軌跡—」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』17, 1-19.</p> <p>2016 「消えたサウンドスケープ—戦前サイパン・ガラバン街で聴かれた音と沖縄県出身者の軌跡—」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』17, 1-19.</p>
<p>副科実技Ⅰ(和楽器)</p> <p>副科実技Ⅱ(和楽器)</p> <p>日本音楽史A</p> <p>日本音楽史B</p> <p>日本・東洋音楽史</p> <p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>日本音楽史研究</p> <p>課題演習</p>	<p>高瀬澄子教授</p>	<p>2016 『『楽書要録』の新たな伝本—京都大学文学研究科図書館所蔵『弁音声』について—』(単著) 『東洋音楽研究』第81号</p> <p>2018 書評「榎木亨著『日本近世期における楽律研究—『律呂新書』を中心として』」(単著) 『音楽学』第64巻第1号</p> <p>2019 書籍紹介「日本音楽の教育と研究をつなぐ会編著、徳丸吉彦監修『唱歌で学ぶ日本音楽』」(単著) 『楽劇学』第26号</p> <p>2019 高瀬澄子・前島美保「十二律“年次”的現蔵地点」(陳佑而訳)(共著) 趙維平主編『第十二届中日音楽比較學術検討會論文集』</p> <p>2020 「現存する日本の律管の寸法」(単著) 『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第21号</p> <p>2025 「安倍季良作「新之律板」「律呂図板」の構造と理論」(単著) 塚原康子先生東京藝術大学退任記念論文集編集委員会編『音楽でつながる 日本とアジア・都市と周縁・近世と近現代』</p>
<p>西洋音楽史講義A</p> <p>西洋音楽史講義B</p> <p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>課題演習</p>	<p>倉橋玲子准教授</p>	<p>2017 西洋音楽史における時代様式と用語理解(1)—演奏による生きた音楽史理解へ向けて—(単著) 教職課程年報vol.2、発刊元: 沖縄県立芸術大学</p>

<p>楽劇理論A</p> <p>楽劇理論B</p> <p>演習 I</p> <p>演習 II</p> <p>原典講読</p> <p>民族舞踊学研究</p> <p>課題演習</p>	<p>呉屋淳子准教授</p>	<p>2025「いつでもどこでも『ワタフォーショウ』、『月刊みんぼく』2025年6月号、pp.14-15、人間文化研究機構国立民族学博物館。</p> <p>2025「パブリック・ヒストリーとしての民俗芸能—読谷村伊良皆伝統芸能保存会の「京太郎」の事例から—」、『南島文化』第47号、pp.79-93。</p> <p>2025「物語がつなぐ命の循環」、『表現と知を編み直す02:土地とともに歌うこと』、pp.10-19、人間文化研究機構総合地球環境学研究所。</p> <p>2025「創作の現場から考える伝統と協働」、『表現と知を編み直す02:土地とともに歌うこと』、pp.20-28、人間文化研究機構総合地球環境学研究所。</p> <p>2024【インタビュー】「声にならない声を引き受け、歌で返す—『歌う人間学』の実践を通じた現場との対話」、『表現と知を編み直す01:土地に歌woと』、pp.10-19、人間文化研究機構総合地球環境学研究所。</p> <p>2023【書評】姜信子『語りと祈り』:「近代によって忘却された『語り』の」</p> <p>2025「今日もこの島は踊る」、『表現と知を編み直す02:土地とともに歌うこと』(共著)、pp.54-63、人間文化研究機構総合地球環境学研究所。</p> <p>2024「『生きる』ということ—宮古島南静園、ツツガー、「アリアンガー」の水の記憶をたどる」、『表現と知を編み直す01:土地に歌を返すこと』、pp.113-126、人間文化研究機構総合地球環境学研究所。</p> <p>2023「『共事者』になるということ」、『震災<後>を生きる:慰霊と回復の災害人文学』、新泉社。</p> <p>2018「被災地からみる民俗芸能の未来—「子ども神楽」の誕生とその活動から考える」、『震災後の地域文化と被災者の民俗誌』、新泉社。</p> <p>2017『学校芸能の民族誌—創造される八重山芸能』平成29年2月、森話社。</p> <p>2019「제2차 세계전후 오키나와전통예능의 계승」『文化権力』、「第二次世界大戦前後の沖縄伝統芸能の継承」、『文化権力』(韓国語)</p> <p>2020「伝統芸能の<担い手>とは誰か—現代から問い直す組踊の継承」『沖縄芸能のダイナミズム』(共著)、pp.136-175、七月社。</p> <p>2015「学校のなかの八重山芸能—人の移動と八重山芸能の成立過程に注目して」、『国立歴史民俗博物館研究報告』第199集。</p> <p>2022『地域芸能と歩む』(共著)令和4年、沖縄県立芸術大学</p>
<p>演習 I</p> <p>演習 II</p> <p>原典講読</p> <p>課題演習</p> <p>西洋音楽史研究</p> <p>ソルフェージュⅠ(文)</p> <p>ソルフェージュⅡ(文)</p> <p>ソルフェージュⅢ(文)</p> <p>ソルフェージュⅣ(文)</p> <p>西洋音楽通史A</p> <p>西洋音楽通史B</p> <p>西洋音楽史講義A</p> <p>西洋音楽史講義B</p>	<p>向井大策准教授</p>	<p>2018 「間違いなく、常に「人間的」なもの—ベンジャミン・ブリテンのカンティクル」、東京・春・音楽祭 2018 公式パンフレット、東京・春・音楽祭実行委員会</p> <p>2019 歌曲の森 ~詩と音楽 Gedichte und Music~ 第24篇 イアン・ポストリッジ 曲目解説、トッパンホール</p> <p>2020 「ブリテンが再創造するシェイクスピアの夜と夢—『夏の夜の夢』の幻想的な世界」、『ジ・アトレ』4月20日発行号</p> <p>2020 「「中庸な道」を歩む—現代音楽とベンジャミン・ブリテンのオペラ」、ベンジャミン・ブリテン《夏の夜の夢》公演パンフレット、新国立劇場</p> <p>2020 「ジェンダー論と音楽—差別と差異への眼差し」、美学会編『美学の事典』、丸善出版</p> <p>2022 NHK交響楽団 第1970回 定期公演 Bプログラム (ヴォーン・ウィリアムズ生誕150年 指揮:レナード・スラトキン、ヴァイオリン・レイ・チェン) 曲目解説、『フィルハーモニー』第94巻8号</p> <p>2024 「人間という存在に対する共感に満ちた洞察—マーク=アンソニー・ターネジの横顔」、コンポージアム2024 公演パンフレット、東京オペラシティ財団</p> <p>2024 「〈抽象的な音〉の冒険」の中に描き出される作曲家の音楽的思考の軌跡:高橋智子『モートン・フェルドマン:〈抽象的な音〉の冒険』書評、『表象』第18号</p> <p>2025 「島とともに歌うこと—探究の技法としてのミュージッキング」、呉屋淳子・向井大策編『表現と知を編み直す02—土地とともに歌うこと』、総合地球環境学研究所</p> <p>2025 NHK交響楽団 第2035回 定期公演 Bプログラム (指揮:パーヴォ・ヤルヴィ指揮、ピアノ:ベンジャミン・グロヴァナー) 曲目解説、『フィルハーモニー』第97巻3号</p>

<p>演習 I</p> <p>演習 II</p> <p>原典講読</p> <p>課題演習</p>	<p>遠藤美奈准教授</p>	<p>(著書)</p> <p>2019 「戦前の沖縄における「エイサー」と「盆踊り」の諸相」『沖縄芸術の科学』第31号</p> <p>(その他)</p> <p>2021 「地域の唄を歌い継ぐ人たち-故郷の芸能を支える人たちに注目して」沖縄県文化協会編『地域の伝統文化 継承の現状と課題』</p> <p>(著書)</p> <p>2020 「ふるさとへの希求 ハワイ沖縄系移民と沖縄」久万田晋・三島わかかな編『沖縄芸能のダイナミズム』七月社</p> <p>(学術論文)</p> <p>2022 「琉球古典箏曲「歌物」の類歌関連歌謡の旋律比較」琉球古典箏曲記録保存調査会編『記録作成等の措置を講ずべき無形文化財古典箏曲調査報告書』</p> <p>2022 「古箏に関する追補調査」『琉球古典箏曲記録保存調査会編『記録作成等の措置を講ずべき無形文化財 古典箏曲調査報告書』</p>
<p>(研究所)</p>		
<p>演習 I</p> <p>演習 II</p> <p>原典講読</p> <p>民俗芸能論研究</p> <p>課題演習</p>	<p>久万田晋教授</p>	<p>(学術論文等)</p> <p>2. 「第10章 芸能・娯楽—本市における芸能と娯楽の概要と特徴—」</p> <p>3. 「第10章第2節 民俗芸能・民謡」(一部遠藤美奈と共著)</p> <p>4. 「第10章第4節 芸能娯楽の戦後の展開」</p> <p>5. 「戦後沖縄、二つの芸能コンクール」</p> <p>6. 「近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程—エイサーを事例として—」</p> <p>『現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践—島嶼地域研究・教育の拠点形成—』</p> <p>(文部科学省特別経費概算要求プロジェクト平成27年度成果報告書)琉球大学国際沖縄研究所、平成28年3月、pp.207-224。</p> <p>7. 「南城市の民俗芸能概観」</p> <p>『沖縄県立芸術大学と南城市との包括連携事業 南城市地域民俗芸能調査委託業務報告書』</p> <p>沖縄県南城市文化センター・シュガーホール 南城市文化のまちづくり事業実行委員会、平成29年3月、pp.1-6。</p> <p>8. 「第六節 近現代エイサーの展開」</p> <p>『沖縄県史 各論編 第九巻 民俗』沖縄県教育委員会、令和2年3月24日pp.691-696。</p> <p>9. 「沖縄白太鼓旋律のリズム分析試論—奄美大島八月踊り旋律と比較して—」</p> <p>『沖縄芸術の科学』第32号、令和2年3月31日、pp.33-49。</p> <p>10. 「沖縄本島におけるエイサー伝播の現代的状況—沖縄本島北部・中部・南部の事例から—」</p> <p>『沖縄芸能のダイナミズム 創造・表象・越境』(久万田晋・三島わかかな編)七月社、令和2年4月15日、pp.252-288。</p> <p>11. 「書評: 塚田健一著『エイサー物語 移動する人、伝播する芸能』」</p> <p>『東洋音楽研究』第85号、一般社団法人東洋音楽学会、令和2年8月、pp.140-143。</p> <p>12. 「踊るエイサーから魅せるエイサーへ」</p> <p>『季刊民族学』第46巻第3号(通巻181号)、公益財団法人千里文化財団、令和4年7月、pp.42-51。</p>

科目名	担当教員	科目に対応する主な業績
教職論	前田比呂也	2024『TEXTBOOK FOR ART EDUCATION OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF THEORY OF TEACHER』(単著)
		2022「中学校校長日記－「行きたくなくなる学校」にならないように」沖縄少年友の会第13号
		2021「注目 魅力ある先生」中等教育資料7月号 文部科学省
		2020「校長講話 退屈でない話」沖縄県小・中学校長会会報77号
		2019・「平成29・30・令和元年度 沖縄県教育委員会研究指定校研究報告書」那覇市立寄宮中学校
		2019「対馬丸記念館と上山中学校」対馬丸通信(対馬丸記念館事務局)
		2018『前田比呂也 酸化皮膜』「開館10周年記念展 邂逅の海 交差するリアリズム」展覧会図録 沖縄県立博物館・美術館)
教育原理	芳澤拓也	2017『危機のなかの若者たち』東京大学出版会(共著)
		2017「教授学と汎知学ーコメニウスの思想とその歴史的背景ー」沖縄県立芸術大学『教職課程年報 3』
		2017「戦後学校教育の歩みと「教育問題」ー競争の下での生徒・進路指導ー」沖縄県立芸術大学『教職課程年報 3』
		2022「研究ノート 戦後教育学批判と坂元忠芳教育思想史研究ーその1ー」沖縄県立芸術大学『教職課程年報 8』
		2025「いじめにおける子どもの関係、学級における教師の在り方についてー大河内清輝さんのいじめ自死事件を基点にして(その1)ー」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 11』
教育心理学	城間祥子	2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社(共著)
		2021「学びのための連載:統計法/研究法 エスノグラフィー」『季刊 公認心理師』2(3)、協同出版(単著)
		2023「総合的な学習の時間におけるエージェンシーの集成的達成:多様なアクターとともに作り続ける学習環境としての子ども文楽」『発達心理学研究』34(4)(単著)
教育方法(情報通信技術の活用含む)	城間祥子	2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社(共著)
		2019「ワークショップを实践できる教師の育成を目的とした授業プログラムの開発」『上越教育大学研究紀要』38(2)(単著)
		2023「総合的な学習の時間におけるエージェンシーの集成的達成:多様なアクターとともに作り続ける学習環境としての子ども文楽」『発達心理学研究』34(4)(単著)
教育行政	織原保尚	2025「障害児の教育を受ける権利とインクルーシブ教育」日本障害法学会編『講座 障害法 第3巻 教育法・労働法・社会保障法における障害』、生活書院
		2024『法学ダイアリー(第2版)』(共著)ナカニシヤ出版
		2024『スタート憲法(第4版)』(共著)成文堂
学校カウンセリング	島袋有子	2023「遠隔授業におけるグループワークの試み」『琉球大学教育センター報』25(単著)

教育課程	城間祥子	2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）
		2015「地域での活動と省察を中心とした「体験」型プログラム」『教員養成教育における教育改善の取組に関する調査研究－アクティブ・ラーニングに着目して－』国立教育政策研究所（共著）
		2023「総合的な学習の時間におけるエージェンシーの集合的達成：多様なアクターとともに作り続ける学習環境としての子ども文楽」『発達心理学研究』34(4)（単著）
生徒・進路指導論	芳澤拓也	2017『危機のなかの若者たち』東京大学出版会（共著）
		2017「戦後学校教育の歩みと「教育問題」－競争の下での生徒・進路指導－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 3』
		2025「いじめにおける子どもの関係、学級における教師の在り方について－大河内清輝さんのいじめ自死事件を基点にして（その1）－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 11』
特別支援教育	比嘉浩	2017「県立沖縄高等特別支援学校における社会的、職業的自立をめざした学校経営－寄宿舎生活に係る生徒・保護者向けアンケート調査の分析を通して－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 3』
		2021「2つのタイプの遠隔授業を通じた学生の履修状況について－令和2年度「特別支援教育」の講義を通して－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 7』
		2022「特別支援教育に関する学生の興味関心及び自閉症障害の認知度について－R3年度「特別支援教育」の講義分析を通して－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 8』

美術科教育法Ⅰ	瑞慶山昇	2012「東京美術学校で学んだ平田善吉」、『沖縄県立美術館研究紀要第2号』
		2013「宮古島の絵画同人「二季会」の画家Ⅰ一下地明増と本村恵清一」、『沖縄県立美術館研究紀要第3号』
		2014「古島の絵画同人「二季会」誕生と画家、平野長伴」、『沖縄県立美術館研究紀要第4号』
		「新しい学習指導要領と美術科、芸術科（美術）教育」、沖縄県立芸術大学「教職課程年報 2」
美術科教育法Ⅱ	瑞慶山昇	2012「東京美術学校で学んだ平田善吉」、『沖縄県立美術館研究紀要第2号』
		2013「宮古島の絵画同人「二季会」の画家Ⅰ一下地明増と本村恵清一」、『沖縄県立美術館研究紀要第3号』
		2014「古島の絵画同人「二季会」誕生と画家、平野長伴」、『沖縄県立美術館研究紀要第4号』
		2016「新しい学習指導要領と美術科、芸術科（美術）教育」、沖縄県立芸術大学「教職課程年報 2」
美術科教育法Ⅲ	瑞慶山昇	2012「東京美術学校で学んだ平田善吉」、『沖縄県立美術館研究紀要第2号』
		2013「宮古島の絵画同人「二季会」の画家Ⅰ一下地明増と本村恵清一」、『沖縄県立美術館研究紀要第3号』
		2014「古島の絵画同人「二季会」誕生と画家、平野長伴」、『沖縄県立美術館研究紀要第4号』
		2016「新しい学習指導要領と美術科、芸術科（美術）教育」、沖縄県立芸術大学「教職課程年報 2」
工芸科教育法	田里みのり	2024「現行学習指導要領における評価の考え方と工芸科学習指導案」『教職課程年報 9』（単著）
音楽科教育法Ⅰ	西村幸高	2017「ピアノの音色を豊かにするメソッドに関する研究Ⅱ－自己意識の変化に着目して－」、『九州龍谷短期大学紀要63号』
		2018「音楽教育におけるリベラル・アーツの可能性－幼児教育養成課程での実践を通して－」、『九州龍谷短期大学紀要64号』
		2019「幼児教育者養成課程におけるリトミックの可能性－幼小連携に焦点を当てた実践から－」、『九州龍谷短期大学紀要65号』
		2019「教養教育としての音楽の役割について－公開講座に焦点を当てて－」、第51回九州公私立大学音楽学会福岡大会研究発表要旨
音楽科教育法Ⅱ	高江洲博子	2011「『リコーダー』とともに 続けること・積み重ねること」、沖縄県リコーダー教育研究会30周年記念誌収録
		2013「リコーダー×創作 リコーダーで音楽づくりを楽しもう」、『教育音楽 7月号』、音楽之友社
音楽科教育法Ⅲ	高江洲博子	2011「『リコーダー』とともに 続けること・積み重ねること」、沖縄県リコーダー教育研究会30周年記念誌収録 2013「リコーダー×創作 リコーダーで音楽づくりを楽しもう」、『教育音楽 7月号』、音楽之友社

道徳教育の理論及び指導法	芳澤拓也	2017「『特別の教科 道徳』の構想－目標、学習の過程、評価－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 2』
		2017「道徳教育の方法論をめぐる理論的展開－コールバーグまでとコールバーグ以後－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 2』
		2023「アクティビティ、ゴーイング・ドットィを用いた人権教育・権力構造理解－セクシュアリティをめぐるマイノリティとマジョリティの関係理解へむけて－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 9』
		2025「いじめにおける子どもの関係、学級における教師の在り方について－大河内清輝さんのいじめ自死事件を基点にして（その1）－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 11』
特別活動	芳澤拓也	2017「新しい学習指導要領における特別活動の論理」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 2』
		2023「アクティビティ、ゴーイング・ドットィを用いた人権教育・権力構造理解－セクシュアリティをめぐるマイノリティとマジョリティの関係理解へむけて－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 9』
		2025「いじめにおける子どもの関係、学級における教師の在り方について－大河内清輝さんのいじめ自死事件を基点にして（その1）－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 11』
総合的な学習の時間の指導法	芳澤拓也	2016「コンピテンシーベースの『資質・能力』論を軸とした学習、教育課程、学校の再編」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 1』
		2019「新学習指導要領における『総合的な学習の時間』の構想と人格の発達」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 5』
		2023「アクティビティ、ゴーイング・ドットィを用いた人権教育・権力構造理解－セクシュアリティをめぐるマイノリティとマジョリティの関係理解へむけて－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 9』
総合的な学習の時間の指導法	城間祥子	2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）
		2023「総合的な学習の時間におけるエージェンシーの集成的達成：多様なアクターとともに作り続ける学習環境としての子ども文楽」『発達心理学研究』34(4)（単著）
教育実習 （長期） （短期）	芳澤拓也	2017『危機のなかの若者たち』東京大学出版会（共著）
		2019「インストラクショナル・デザインという発想－効果的な授業内容の構想・設計・実施・評価、およびその方法の構築の為に－」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 5』

教育実習 (長期) (短期)	城間祥子	2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社(共著)
		2019「ワークショップを实践できる教師の育成を目的とした授業プログラムの開発」『上越教育大学研究紀要』38(2)(単著)
教職実践演習 (中・高)	芳澤拓也	2017『危機のなかの若者たち』東京大学出版会(共著)
		2019「インストラクショナル・デザインという発想—効果的な授業内容の構想・設計・実施・評価、およびその方法の構築の為に—」、沖縄県立芸術大学『教職課程年報 5』
教職実践演習 (中・高)	城間祥子	2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社(共著)
		2019「ワークショップを实践できる教師の育成を目的とした授業プログラムの開発」『上越教育大学研究紀要』38(2)(単著)
		2023「総合的な学習の時間におけるエージェンシーの集会的達成：多様なアクターとともに作り続ける学習環境としての子ども文楽」『発達心理学研究』34(4)(単著)